

「東名ジャンクション（仮称）」殿山横穴墓群に関する活用検討会

第 2 回 議事概要

1 日時及び場所

日時：平成 28 年 11 月 17 日（木）15：00～17：00

場所：東京外かく環状国道事務所 喜多見 7 丁目常設会場

2 出席委員（敬称略）

有識者：中野恒明、阿部伸太、小泉玲子、砂金伸治

区民：中川清史、荒川和茂、八木孝夫

世田谷区：桐山孝義、青山雅夫、工藤郁淳

事業者：佐藤眞平、安原正幸、野坂光弘

3 傍聴者数

7 名

4 会議の概要

（1）第 1 回の振り返りについて

第 1 回検討会における活用に関する主な発言（抜粋）について、事務局より説明した。

（2）活用について

資料 4 に基づき、殿山横穴墓群に関する活用アイデア募集の結果について、事務局より説明した。

主な発言は以下のとおり。

活用アイデアの応募者の属性について、年齢等の情報はないが、ほぼ近隣にお住まいの方からである。

応募されたアイデア募集を参考に自由にご発言いただきたい。

応募された活用アイデアについては、現時点で実現可能性まで検証することを想定していない。

資料 5 等に基づき、検討のための活用事例等について、事務局より説明した。

（3）議事について

次第に基づき「活用方法」について、議論がなされた。

主な発言は以下のとおり。

現場で何かしらわかるという状態、レプリカという意味ではなくて、ここにそういう空間があったという空間作りがされると良い。

遺跡の情報パネルの展示、写真の展示、リーフレットの設置などを例えば、学校

などの教育機関など既にある施設をうまく利用して、教育的な情報提供をするのが、現実的で良い。

展示については、郷土資料館ではなく、やはり地元でされると良い。

地元で活用できる場所を探していく方法もある。

例えば体育館施設もできるようなので、そこに展示できる可能性もある。この中で無理であれば、近くの公共施設の一角に展示施設を作るという考え方もある。どの施設を利用するかは先の話だと思う。既存施設を使って、展示するという形がある。

人口 90 万の世田谷区として、郷土資料館が区内に 1 箇所しかないのは、地域性を反映していなさすぎる面がある。本来であれば、この地域になんらかの展示施設があればいいが、箱物はむしろ減らすご時勢だし、維持費のかかる施設をここに作れるのかという議論が次のステップで必要だ。

遺跡を残せないならレプリカという発想はあるが、レプリカは維持管理がとても大変で、人手と費用がかかることがどこの自治体でも抱えている問題としてある。レプリカではなく地域の方々が、歴史を学べるような、実現可能な活用方法を探れると良い。

維持管理に費用のかからない方法での屋外展示などが良い。また、3D の画像があるので、そちらを極力使った方が良い。

横穴墓群のレプリカやそれに類似するものについては、検討から外しても良い。本来であれば、17 基の横穴墓群を残して欲しかったが、なくなってしまった今となっては、3D の活用という形で後世に伝えていくのが良い。

(資料 4 の 2 の (1) にある) 3D データの活用は、十分可能だと回答があった。

(資料 4 の 2 の (1) にある) 模型については、原寸大はありえないので、作るなら何分の一かの模型になるが、それを作る意味があるのか。寧ろ良い写真が残っているので、写真を見せる方が良い。

(資料 4 の 2 の (1) にある) 地元で展示するという事に関して、本来、文化財の保存展示ということからすると、出土した場所に極力近いところ、同じような条件のところ、展示をするのが基本原則なので、今回の事業の中及び区が管理する田直公園の辺りの中で、なるべく現地に近いところで屋外展示をするなどを検討したらどうか。例えば、タイルのようなものに写真をプリントし、コンクリートで作ったパネルにタイルを設置する。17 基の写真を大小さまざまなパネルにすることが可能だ。

(資料 4 の 2 の (1) にある) 上部利用空間の公園は発掘場所から結構離れている。田直公園の方が、近そうである。ランプの法面が開放されるか公表されていないが、開放されるなら法面に管理用通路を作って、下まで歩いて行けるのであれば、どこかに展示するのは選択肢としてありうる。展示場所は今回の検討会では結論は出せないが、なるべく現地に近いところ、分かりやすい位置に分かりやすい展示をすることが良い。

(資料 4 の 2 の (1) に) 見学できる資料館または資料室とあるが、場合によっ

ては小学校やインターネットでというのもある。

(資料4の2の(1)にある)横穴墓群の出土品は風化してしまうので説明・解説物が、とあるが、前回、パンフレット、インターネット、公園の中での展示などに解説をつけるなどいろんな方法があると発言があった。

(資料4の2の(1)にある)写真・データ・見学会の様子ということだが、写真パネルにして展示するという方法がある。

(資料4の2の(1)にある)3D・DVDというのは、十分可能だと回答をいただいている。

(資料4の2の(1)にある)小学生などを対象に、当時の生活を表現した校外学習コーナーを設けるとあるが、出土場所の近くで何か展示ができれば良い。

(資料4の2の(1)にある)小・中学校の教材としての活用も、前回、あると良いと発言があった。

管理面やセキュリティーの面から近づけない部分もあるかと思うが、換気塔の周辺などを少し広場的にしたり、簡素でも施設を入れたりすることで、公園区域以外にも、展示場所をうまく見つけることができる。少し柔軟性を持って検討されたほうが良い。

現地に近いところで、そこにあったことがわかるように、風化を避けられるようなパネルの展示があると良い。

高速道路付近は、安全面から一般的には網目の立入防止柵を設ける。上部空間としての利活用に関する開放の仕方は、これからの検討になるが、高速道路上に人が安易に立ち入ると問題になるので、境界線をどこに持ってくるかは、今後、議論する。

区画している壁面に、17基の横穴墓を原寸大でプリントして、この先にあったとわかるような工夫ができないか。縮小するとイメージが伝わりにくいので、壁面が多くありそうなので、17基あったという壮観な景色をできれば原寸大で再現できると良い。

田直公園から横穴墓周辺のランプの法面を部分的に開放し、そこに通路を設け、何らかの展示が可能になると良い。ただせつなくなので、いくら展示物であっても、雑草にうずもれる場所には置きたくない。ある程度、人が自由に入れて、安全でかつ人通りのある場所に置くと良い。

ランプの法面の開放ができなければ、せめて17個の銘盤を埋めて、地元の子どもたちが、離れたところの展示パネルを見ながら、どこにあったか探せる分かりやすい展示方法ができると良い。

換気塔の周辺には、大きな立坑もあり、両者を管理する施設が必要である。今現在、詳細設計中である。有効活用は難しい面があるが、検討はしていきたい。

Gランプの法面に銘盤をおくと、東名高速の利用者からも、西側の道路の利用者からも見えるので、理想的である。

副葬品の展示は、保存する必要があるなので、管理ができるところになる。ただ、地元の要望としては、展示施設が欲しいということで構わないが、できるかどうか

かは、文化財行政をどうするかによるところもある。場合によっては、小学校や教育施設が良い場合もある。

出土品のレプリカの展示は、意外と費用がかかる上に、FRPなどで作るので、本物と質感が違うものになる。また、時間の経過とともに、陳腐化する。

地元の学校での展示を考えると、砧小学校が全面改築なので、展示スペースを設計に組み入れてもらうと良い。

改築に併せた展示スペースの確保については、とりまとめに記載があれば、区の関係所管が可能性を検討するので、現時点では、結論は出せない。議論があったことは事実なので、とりまとめに含ませ、しっかりと繋いでいくことが重要だ。剣など錆びるものは、現物ではなく写真の方が良い。須恵器や陶器類を現地に置くかは今後の判断だと思う。

ジャンクションの名称には、「殿山(とねやま)」と入れてもらいたい。

上部利用計画とは別に検討すれば良いと思うが、この検討会では、参考資料1の事業区域内の白地部分で、開放できる法面とかがあれば、極力地元へ開放して、殿山緑地などと名称をつけるのも良い。道路管理者と地元と地域住民が協力して管理することで、管理者も地域住民もメリットがあるので、検討して頂きたい。ジャンクションの名称の決め方は、市町村の名称を用いることが原則となっている。決定までの具体的な流れは、高速道路会社と自治体で協議し、名称の案を決定した後、国の機関の審査を経て、決定されるという流れになっている。

また、高速道路の利用者がパネルを見られるようにというご発言があったが、利用者にとっては、標識の視認は非常に緊張感を伴うものであるので、できるだけ標識は減らす配慮なども考える必要がある。

換気塔の側面を使いたいというのは、開放されるのであれば、足元の広場を活用したいということである。換気塔広場は世界中にあり、その方が管理者としても管理しやすいというのがある。広場的な価値があれば、パネルを置けば良いというご意見があった。換気塔周りの白地部分の設計が進めば、早めに区へ開示していただくと良い。

(資料4の2の(2)にある)田直公園を含めて殿山遺跡公園として住居跡と一緒に整備しとあるが、住居跡が横穴墓群と同じ時代ではないようなので、実物大模型が贋物っぽくなると思うので、少し注意が必要だ。思いは、歴史的な物をここに留めておきたいとか横穴墓があったことを分からしめる物が欲しいということだと思う。

(資料4の2の(2)にある)地域交流や学びの場とするオープンカフェを併設したミニミュージアムについても、収益の問題、維持管理の問題があるので、今回の議論からはずし、ミニミュージアムを屋外展示のパネルに置き換えて検討したい。

(資料4の2の(2)にある)道の駅を整備し展示スペースを設けるとするのは、今回の議論の中では、道の駅は難しいという認識をしたい。

(資料4の2の(2)にある)未来の住環境の向上にも寄与する緑の空間という

のは、今後、法面の修景や開放について、事業者と区とで協議し、必要によって住民の意見を聞いていただきたい。

(資料4の2の(3)にある)東名高速道路や外環道のランプの壁面に横穴墓群の全容が分かる写真パネル等を設置するというのは、これまでの議論のとおり、近傍に写真パネル等を設置することとしたい。

(資料4の2の(3)にある)ジャンクションの名称については、ご意見として承ることとしたい。

出土品や横穴墓そのものの活用ではなく、横穴墓群が出てきたという事実を活用する方法もある。

パネルの展示にあたり、解説に、横穴墓が眠っているという可能性があることも含めると、地元の小学生や地域の人々の誇りに繋がると思う。

客観的に事実だけを示すのではなく、眠っているというロマンのある展示ができると良い。

ネーミングライツなど手法で企業名を施設につけてもいいなら、スポンサーを探して、空調管理した施設を作ってもらい、精度の高い3D映像、出土品、周辺部分の崖線の解説などを展示するということもある。

外環事業におけるトンネルの技術力は、諸外国もかなり興味を持っている。こうした技術力の発信とともに、殿山横穴墓群の内容を発信すると良い。

次第に基づき「とりまとめ」について、議論がなされた。

主な発言は以下のとおり。

応募された活用に関するアイデアは、参考とするだけでなく、とりまとめに反映する形が良い。

とりまとめにあたり、活用方法の実現に関する財源や誰が負担するのは決めておく必要がある。財政的な裏づけがはっきりしないと、素晴らしい提言がまとまったとしても、実現に至らない懸念がある。

この検討会としては、実現の可否の議論ではなくて、活用の方向性をまとめるのが重要かと思う。

検討会のとりまとめを区や外環事業者が受け取った後に、具体的にどう活用するのはその後のステップだろうと考えている。最初からできるできないを縛ってしまうとなかなかいいアイデアが出てこないと思う。

外環道の計画段階で、国にここに遺跡と地下水があるのは伝えていた。それを承知で、事業決定をしたのだから、活用に関する予算も含めて計画されたものと地元の皆さんはお考えだと思う。

地元の方は、事業に協力しているのだから、外環事業者は検討会が終わったからあと知らないと言わないでくれという趣旨だと思う。その趣旨をぜひご理解いただき、外環事業者もご協力いただきたい。

第1回の活用検討会では、レプリカではなくてむしろ、維持管理のかからない屋外展示や3Dの画像を極力使ったほうが良いとのことだった。

展示場所については、発掘場所から近いところを原則とすると検討会はまとめた
い。

地元の要望に配慮し、極力地元に近いところで、なおかつ地元の小学生が教育上
利用できることや小学校で展示できるものは極力、映像展示も含め小学校での
展示を検討するとまとめた。

外環事業者や区の中でも、文化財だけでなく公園、教育などいろんなセクション
がそれぞれ財源確保に努めるよう、とりまとめに含めると良い。また、民間活力
を活用する方法もある。財源不足により、陳腐なものとなってしまうたり、実現
できなくなってしまうのはもったいない話である。

とりまとめの趣旨を踏まえて、お互いの立場でしっかり持ち帰り、しかるべき責
任所管に繋げることが大事である。ここで議論したという記録は間違いなく残る
から、それぞれの立場で持ち帰って、誠実に整理し、実現に向けて努力できるこ
とを見極めて、実現するべきである。

観光客がたくさん来るところや都市部であれば、広告宣伝効果があり、イベント
で集客できて収益が上がるので、とりまとめに民間活力の活用と書いてもいいが、
今後の話からすると、もう少し慎重に議論した方が良い。

とりまとめから具体的な活用までは、数年程度の時間があると見込んでいるので、
財政的な面は十分議論できると思う。

次回までに、とりまとめの座長案を事務局と調整するので、座長、副座長にご一
任いただきたい。

以上の発言を踏まえ、とりまとめ（座長案）を作成し、第3回活用検討会で議論す
ることとされた。

（4）その他

第3回活用検討会（1月下旬予定）の日程について、事務局より連絡した。